

ヘルスマーター

大腸がん検診について

我が国の大腸がん検診は、40歳以上の健常者を対象として行われています。大腸がんは発育・進展が遅く、症状の無い前臨床期のがん(=早期がん)から治癒不能ながんになるまでは約7年と言われており、その間に繰り返し検診を受けることで救命できる方を高い精度で発見できます。

便潜血検査について

この検診ではまず全員を対象に、便中に存在する潜血を検知する便潜血検査を2日連続で行います。その検査結果で「要精検」と判定された方には精密検査の受診が勧められます。大腸がんに対して、便潜血検査を1日のみ行う場合の感度は60%前後、2日連続で行う場合は80%前後とされます。この「感度」とは、「病気がある方を正しく検出する力」で、感度を高めるため便潜血検査を2日連続で行います。かつての検診は最初の検査の時点で直腸・肛門の診察やスコープ検査を行っていましたが、研究が進み、負担が少なく効果の高い便潜血検査が開発されました。

この便潜血検査の2日法は近年の検診での主体で、2日のうちどちらかでも陽性となった方は精密検査を受けるべき状況と考えられます。しかし、要精検とされた方の受診率はまだまだ高くありません。

精密検査は医師と相談のうえで、基本的に全大腸内視鏡検査を行います。年齢や併存疾患を考慮し施行が困難な場合には他検査が選択されます。

便潜血検査による大腸がん検診はがん検診の中で最も科学的根拠があり、続く内視鏡検査の有効性も確立しつつあります。

大腸がん検診は効果が最も期待できる検診といっても過言ではなく、我が国の大腸がんの死亡率が男女とも上位を占めることを考慮すると、その重要性はなおさらです。ぜひ当該検診を受けていただき、必要な際にはいつでもご相談ください。